

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 26 日 作成
20年度決算把握後平成 21 年 10 月 14 日 作成

総合計画体系	事務事業名	交際事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連		
	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	総務企画部	課長名	建岡 純雄
	施策	24	行財政改革の推進			所属課	市長公室	担当者名	後藤 圭子
	基本事業	83	計画的な施策・事業の推進			所属班	秘書人事班	(内線)	1222
法令根拠									

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	<input type="checkbox"/> 20年度で終了	<input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	12
	1	2	1	1	11024			コスト削減優先度評価結果	6

事業期間 単年度のみ 単年度繰返(開始年度 18 年度) 期間限定複数年度 (~ 年度)

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)
【事業の内容】
 市政の円滑な運営のため、市長が市を代表して、地域の行事や各種団体の会議などに参加をし、地域住民との交流を行う。また、必要に応じて社会通念上必要と思われる範囲内で、慶祝・弔慰・災害見舞い・行事出席の会費などを支払う。
【業務の流れ】
 ①各種団体等からの案内状対応、電報の発信、慶弔確認などを行う。
 ②必要に応じて、各種大会等の祝金、意見交換のための懇談会費、会議等の会費、災害見舞金などを社会通念上必要と思われる範囲内で支払う。
【主な予算費目】
 【款】2総務費 【項】1総務管理費 【目】1一般管理費 【節】10交際費・11消耗品費・12役員費
 1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) ・案内のあった地域行事や各種団体の会議等へ出席をし、必要に応じて祝い金や懇談会等へ参加した際の懇談会費、災害見舞金の支出等を行った。 ・内柴正人氏の北京オリンピック出場を祝い、祝い金を贈るとともに壮行会の開催等によって活躍を祈念した。 ・オリンピック後は金メダル獲得を祝い、名誉市民、祝い金等の贈呈と歓迎セレモニー、祝勝会の開催等によって連続金メダル獲得を祝福した。	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 20年度同様、各種団体や地域住民とのつながりを密にし、まちづくりへ参加しやすい環境や機会を作っていくたい。 ⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) 件 ア 祝い金・災害見舞金等の支出件数 → イ
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 交際団体	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) 件 ア 市に参加を要請された件数 → イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 各団体等との交流を図ることにより市政への意見を聞くことができ、市が活性化する。	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) % ア 目的どおり支出された割合 → イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 計画的に実施されている。	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) % ア 施策目標を達成している諸施策の割合 → イ

(2) 総事業費・指標等の推移										
	単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度	
投入量	国庫支出金	千円							総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限 定 複 数 年 度 の み 記 載) 0 0 0	
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	1,380	961	1,480	3,743	1,490	1,490		1,490
	(A) 事業費計	千円	1,380	961	1,480	3,743	1,490	1,490		1,490
	うち指定経費	千円								
	うち時間外、特殊勤務手当	千円								
	人件費	人	3	3	3	5	3	3		3
正規職員従事人数	人	3	3	3	5	3	3	3		
延べ業務時間	時間	113	116	110	436	110	110	110		
(B)人件費計	千円	449	462	438	1,735	438	438	438		
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,829	1,423	1,918	5,478	1,928	1,928	1,928		
活動指標	件				132	130	130	130	目 標 合 計 値 画 22 年 度	
対象指標	件	300	300	300	370	370	370	370		
成果指標	%	100	100	100	100	100	100	100		
上位成果指標	%									

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等
 ① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
 以前から地域住民や各種団体との友好を図るために行っていた。
 ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
 交際費の支出が縮小傾向にある。
 ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
 住民からの交際費の情報公開は必要不可欠であり、適正な支出が求められる。

事務事業名	交際事業	所属部	総務企画部	所属課	市長公室
-------	------	-----	-------	-----	------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 市民等と接することにより情報交換ができ、つながりも保つことができる。また、情報の共有や、市が行おうとする事業に対する理解も、地元で説明することにより、得られやすくなる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 社会通念上必要な範囲の支出である。
	③対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 市が地域住民や各種団体と共に、よりよいまちづくりのための情報交換や情報の共有のための機会として、妥当であると考ええる。
有効性 評価	④成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 数多くの案内等に対し、できる限り出席するようにしている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 社会通念上必要と思われる範囲内での儀礼であり、廃止した場合、市政運営に関連のある個人・団体とのつながりに支障を及ぼす恐れがある。
	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒(具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似する事業がない。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 実費相当額のみである。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 アウトソーシングにはなじまない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 地域や各種団体からの案内に対しては公平公正に出席ないし支出をしている。また、金額についても基準を設けており、公平公正である。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	案内に対して参加をすることは、地域住民とのつながりの強化や情報の共有、理解をより得やすくなるなど、必要なことである。それに伴う交際費の支出については、現在、実費相当分の支出ではあるが、参加する回数や範囲など見直せないものだろうか、と考えている。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上	○			維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上	○																							
	維持																								
	低下																								

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
現在の交際費の支出は実費相当分の支出であり、削減する基準や項目などその判断がむずかしいところではある。

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	4	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	6	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)